

# 旧中工場 アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

「ゴミが、地域が、銀行が、  
広島でアートになる！」

2007年4月1日～22日

総合ディレクター 柳 幸典

- ゴミがアートになる！超高品質なホコリ 展
- わたしの庭とみんなの庭 展
- 金庫室のゲルトシャイサー 展

**PRESS RELEASE 2007,3,27**

お問い合わせ先：

**070-5520-4961** (担当：岩崎)

E-mail : [cat@art.hiroshima-cu.ac.jp](mailto:cat@art.hiroshima-cu.ac.jp)

〒731-3149 広島市安佐南区大塚東3丁目4-1 広島市立大学芸術学部 現代表現研究室

**[www.cat-lab.jpn.org](http://www.cat-lab.jpn.org)**

# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

## 01. 総合ディレクター メッセージ

柳 幸典

アートの教育機関とアーティストそして地域による共同体的アートセンターを構想しています。箱はあっても結局中身を動かすのは人です。いい人材が集まり、いい人材を育てる。そして行政で対応出来ない地域の問題解決をアートが提案する。

アートセンター構想に先立ち、まずは問題点を共有する地域再生型のアートプロジェクトをそれぞれの地域で実践している活動家達を呼んでのシンポジウムを、谷口吉生氏建築による最先端のゴミ焼却施設を会場に企画しました。加えて同時に広域アートプロジェクトとして、旧中工場本体での展覧会、新旧中工場を抱える地域での展覧会、そしてサテライト企画として旧日本銀行広島支店での展覧会を企画しました。

旧中工場本体での展覧会は非常勤助手の岩崎貴宏君に「ゴミがアートになる！」という企画ディレクションのもと「超高品質なホコリ」という企画を立案してもらいました。まったくアートとは無縁のゴミ焼却施設プラットホームの巨大な空間で超高品質にエレガントなゴミのアートを発見するでしょう。

地域での展覧会は現代表現領域三年生による吉島のフィールドワークをもとに研究室内で討議を重ね、「わたしの庭とみんなの庭」という企画テーマをたてました。公園や遊歩道というパブリックなスペースにプライベートともいえる植栽や洗濯物の表出があり、鉢植えや盆栽という移動可能な「庭」がパブリックとプライベートを横断する特徴的な風景を発見したからです。工場地域で決して緑が多いとは言えない環境で、公園の機能、植栽の知恵、生活と植物、公と私のあり方が企画の発想となりました。このテーマの下アーティスト達に展示やワークショップをお願いする事になります。またこの吉島地域での展開は学生主体での実践的プロジェクトとなります。企画担当者には現代表現博士前期在籍中の今井みはる君が非常勤助手の中村圭君のサポートのもとに担当します。

そして私が企画するサテライト展「金庫室のゲルトシャイサー」では、広島市指定重要文化財であり被爆建物である旧日本銀行広島支店で、被爆の歴史的事実そして貨幣経済を担ってきた歴史を引用したメッセージ性のあるサイトスペシフィックな展示内容を計画します。「戦争」「貨幣システム」その独占機関としての「国家」について問題提起します。また旧中工場アートセンター構想と同じく、その本来の機能を終えた建造物の積極的な歴史の引用によるアートセンターとしての実験的提案ともいえるでしょう。

地域的問題意識を踏まえ市立大学出身作家には特に参加を要請しました。外部からの招待作家達はいずれも国内外で活躍中の作家で広島では未発表の作家も多くいます。地域の問題点に共鳴する作家達といえます。また今回公募という形で新たな才能の発掘にも機会を提供しました。初の作家デビューとなる若者も少なからず参加することになるでしょう。

このプロジェクトは一回限りのイベントではなく、継続させてこそ意味のあるものだと考えています。そして我々の理想とするアートセンターの実現へと至る第一歩だと信じています。

(美術家/広島市立大学芸術学部助教授)

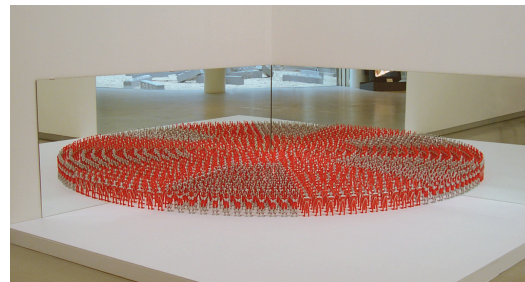
# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

## 02. 総合ディレクター プロフィール

柳 幸典 (やなぎ ゆきのり)

[www.yanagistudio.net](http://www.yanagistudio.net)



柳 幸典 《バンザイ・コーナー》1991  
プラスチック人形、鏡 183×183×90cm

産業遺構のアートによる再生プロジェクトが主たる研究テーマ。

旧精錬所跡の産業遺跡島をテーマとした岡山の「犬島プロジェクト」が10年間の構想を経て2007年より第一期工事が始まる。瀬戸内海が主なフィールドで、移動事務所のヨット「シナプス」で長崎から大阪湾までを調査中。

広島湾にある旧ゴミ焼却施設を舞台とした旧中工場アートプロジェクトへと至る。

### 略歴

- 1992～1993年 武蔵野美術大学映像学科非常勤講師
- 1992年 アジアン・カルチュラル・カウンシル日米交流プログラムにおいて、  
P S 1 ミュージアム (ニューヨーク、アメリカ) インターナショナル・スタジオ・プログラム参加
- 1993～2000年 ニューヨーク、37丁目スタジオを中心に活動
- 2000年 広島市現代美術館にて初の回顧展
- 2001年 帰国、福岡県糸島にスタジオを構える
- 2005年～ 広島市立大学芸術学部現代表現領域助教授

第45回ベニス・ビエンナーレ(1993年)、第23回サンパウロ・ビエンナーレ(1996年)、第4回ビエンナーレ・ド・リヨン(1997年)、第4回台北ビエンナーレ(1998年)、ホイットニー・バイアニュアル(2000年)、第3回光州ビエンナーレ(2000年)など多くの国際展に招待される。

# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

## 03.開催概要 (2007年3月現在)

名称：旧中工場アートプロジェクト

会期：2007年4月1日(日)～4月22日(日)

開場時間：午前10時～午後5時(最終入場は30分前まで)(展示場所によっては制限あり)

企画展：①「ゴミがアートになる！超高品質なホコリ」展

②「わたしの庭とみんなの庭」展

会場：①旧中工場プラットホーム(広島市中区南吉島1丁目4-2)

②広島市中区吉島学区・吉島東学区各所

サテライト企画：「金庫室のゲルトシャイサー」展(関連企画「どうする？広島の折鶴」)

会場：旧日本銀行広島支店(広島市中区袋町5丁目16)

開場時間：午前10～午後7時(最終入場は30分前まで)

シンポジウム：「地域におけるアートの役割」

会場：広島市環境局中工場(広島市中区南吉島1丁目5-1)見学者説明室 定員160名(当日先着順、参加費無料)

4月1日(日) 13:00～17:30

観覧無料 会期中無休(展示場所によっては制限あり)

総合ディレクター：柳 幸典

**i** 総合案内：広島市環境局旧中工場(広島市中区南吉島1丁目4-2)

交通案内

バス：JR広島駅(3番のりば)・八丁堀・本通などから広島バス(赤バス)24系統「吉島営業所」行きに乗り「南吉島」にて下車(約28分)、徒歩5分。※同じ24系統の「吉島病院」行きに乗らないよう注意して下さい。


車：吉島通りを南下した突き当たり。駐車場は周辺の駐車場をご利用下さい。


主催：旧中工場アートプロジェクト実行委員会


〒731-3149 広島市安佐南区大塚東3丁目4-1 広島市立大学芸術学部 現代表現研究室

TEL/FAX：082-830-1635 PHS：070-5520-4961 E-mail：cat@art.hiroshima-cu.ac.jp URL：www.cat-lab.jp.org

共催：広島市立大学芸術学部、広島市吉島公民館、(財)広島市ひと・まちネットワーク

協賛：株式会社きなり、株式会社大和ラヂエーター製作所、Yanagi Studio

助成：アサヒビール芸術文化財団、エネルギー文化・スポーツ財団助成事業、財団法人朝日新聞文化財団

協力：アサヒビール株式会社、深瀬記念視覚芸術保存基金、アートサポーターズ@広島

ゲルトシャイサー・イン・ヴァルト実行委員会

# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

## シンポジウム

テーマ：「地域におけるアートの役割」

日時：2007年4月1日（日）13:00～17:30

会場：広島市環境局中工場（広島市中区南吉島1丁目5-1）見学者説明室 定員160名（当日先着順、参加費無料）

### 企画概要

様々な地域で取り組みが続けられている地域再生型アートプロジェクトの事例報告を受け、地域におけるアートの役割を考え、旧中工場アートセンター構想の今後の方向性についてさまざまな角度から検証していきます。

参加者は地域の方々、広島市民、学生、行政の都市計画・文化政策関係、企業メセナ関係、アーティストなど広範囲の分野からの参加を想定しています。

#### 【第一部：レクチャー】13:00～15:00

13:00 大井健次「広島における都市軸・旧中工場アートセンター構想」

13:20 山野真悟「ミュージアム・シティ・プロジェクト 事例報告」

13:50 池田修 「BankART1929 事例報告」

14:20 森司 「取手アートプロジェクト 事例報告」

14:50 休憩（10分）

#### 【第二部：トークディスカッション】15:00～17:30

「広島でアートは可能か？」旧中工場アートセンター構想 副題：廃棄物が集積した場所から知的創造物を発信する場所へ

パネリスト：池田修、竹田直樹、中島正博、藤浩志、森司、柳幸典、山野真悟

モデレーター：岡本芳枝

#### 【シンポジウム参加者リスト】

池田修：BankART1929 ディレクター

大井健次：広島市立大学芸術学部教授

岡本芳枝：広島市文化財団文化事業部

中島正博：広島市立大学国際学部教授

森司：TAM 運営委員会美術ディレクター／水戸芸術館学芸員

山野真悟：ミュージアム・シティ・プロジェクト運営委員長

柳幸典：美術家/旧中工場アートプロジェクト総合ディレクター/広島市立大学芸術学部助教授

友情出演

藤浩志：美術家

竹田直樹：造園家

オープニングパーティー

日時：2007年4月1日（日）18:00～

主催：旧中工場アートプロジェクト実行委員会

共催：広島市立大学芸術学部 現代表現領域

助成：Asahiアサヒビール芸術文化財団、エネルギー文化・スポーツ財団助成事業

協力 Asahiアサヒビール株式会社、アートサポーターズ@広島

# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

## 「ゴミがアートになる！超高品質なホコリ」展

2007年4月1日（日）～4月22日（日）10:00～17:00（最終入場は閉場の30分前まで）

旧中工場プラットホーム（広島市中区南吉島1丁目4-2）

観覧無料/会期中無休

企画担当：岩崎貴宏（広島市立大学芸術学部 非常勤助手）

### 企画概要

広島市の吉島にある旧中工場ゴミ焼却施設のプラットホームにて、場の意味を引用し、日常生活から廃棄される物を錬金術的にアートに昇華した作品や、ゴミの社会的、文化的意味を問い直した作品で構成された企画展です。

会場となるプラットホームの巨大な空間の迫力を初見で鑑賞者に見せながらも、展示作品の存在感も発揮する為に、作品のサイズが極小なもの、もしくはあまりに日常性を装っているため気付かないような作品を会場内に重層的に多数配置し、そこを鑑賞者が散策する事で、巨大な空間と極小の作品による2重視点でプラットホームを楽しめる企画展です。

受付で鑑賞者には会場マップと虫眼鏡が渡され、ほの暗い巨大な会場内へ入ります。展示作品は場にとけ込んでいるので見つけにくい上に、小さく繊細なアート作品が点在しています。1度に会場内に入れるのは10人までとしますので存分に作品を探索、鑑賞する事が出来ます。

出品作品は小さいことはさることながら、その素材がホコリや、毛玉、髪の毛、ふけ、糸屑、チューイングガム、昆虫の死骸、ビーズ、シャーペンの芯、ケーブル、接着剤といった通常ゴミと呼ばれる物や、安価な日用品で出来ています。会場内の小さなゴミやクズに混じって見えてくるアート作品の小宇宙、理科の実験中に顕微鏡の中で見たような発見と驚きに満ちた世界を提示します。

### 観覧上の注意事項

それぞれの作品が非常に小さく壊れやすいため、1度に会場内に入れるのは最大10名様に限らせていただきます。

その際、入場は当日、随時受付順とさせていただきます（混み合っている時には外でお待ちいただく場合がございます）。

またお子様は保護者同伴による入場とさせていただきます。

詳しくは当日のスタッフの指示にお従い下さい（消防法及び作品修繕等の都合により、予定の時間に入場していただけない場合もあります。あらかじめご了承下さい）。

### 交通案内：旧中工場プラットホーム（広島市中区南吉島1丁目4-2）

バス：JR広島駅（3番のりば）・八丁堀・本通りなどから広島バス（赤バス）24系統「吉島営業所」行きに乗り「南吉島」にて下車（約28分）、徒歩5分。※同じ24系統の「吉島病院」行きに乗らないよう注意して下さい。

車：吉島通りを南下した突き当たり。駐車場は周辺の駐車場をご利用下さい。

主催：旧中工場アートプロジェクト実行委員会

共催：広島市立大学芸術学部現代表現領域

助成：Asahiアサヒビール芸術文化財団、エネルギー文化・スポーツ財団助成事業

協力：アートサポーターズ@広島

**PRESS RELEASE**  
2007年3月28日

**旧中工場アートプロジェクト**  
070-5520-4961（広報担当：岩崎）

**広島市立大学芸術学部 現代表現研究室** 〒731-3149 広島市安佐南区大塚東3丁目4-1  
URL : [www.cat-lab.jp.org](http://www.cat-lab.jp.org) E-mail : [cat@art.hiroshima-cu.ac.jp](mailto:cat@art.hiroshima-cu.ac.jp) TEL : 082-830-1501



# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

## 「ゴミがアートになる！超高品質なホコリ」展

参加作家：20名



《cross?》 2005

### 藤 浩志

1960年鹿児島生まれ。現在、福岡を拠点として精力的に活動中。

主に地域資源、適性技術、協力関係を基盤としたデモンストレーションによる提案型の表現。その場の属性（地域、人、組織、空間）に応じたカテゴリにとらわれない活動の企画・制作。



《Notice-Forest》（告知-森）2006

### 照屋 勇賢

1973年沖縄生まれ。現在、ニューヨークを拠点に活動し、「横浜トリエンナーレ2005」「第12回バン格拉ディシュ・ビエンナーレ」等に参加。

自然と消費主義の繋がりを、伝統的でありなおかつ現代的でもある素材を取り入れた作品を制作。



《DIFFERENTIAL / INTEGRAL CALCULUS》  
（部分） 2005

### 岩崎 貴宏

1975年広島生まれ。スコットランドのエジンバラカレッジオブアートを修了。

儚さと移ろいやすさをテーマとして身の回りにある日用品等で作品を制作。

左写真はシャーペンの芯で電柱を作りミニチュアの都市構造を展開した作品。

2007年10月、六本木クロッシング2（森美術館）に参加予定。



《untitled-skirt-》2006

### 平野 薫

1975年長崎生まれ。広島市立大学芸術学部を修了

人が使用した衣類や傘などを糸の状態まで解体し、それをつないで（もしくは編んで）空間に再構築するインスタレーション作品を制作している。

2007年1～2月、資生堂ギャラリーで個展開催中。

**PRESS RELEASE**

2007年3月28日

**旧中工場アートプロジェクト**

070-5520-4961（広報担当：岩崎）

**広島市立大学芸術学部 現代表現研究室** 〒731-3149 広島市安佐南区大塚東3丁目4-1

URL : [www.cat-lab.jp.org](http://www.cat-lab.jp.org) E-mail : [cat@art.hiroshima-cu.ac.jp](mailto:cat@art.hiroshima-cu.ac.jp) TEL : 082-830-1501

# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

## 「わたしの庭とみんなの庭」展

2007年4月1日(日)～4月22日(日) 10:00～17:00

(展示場所によって開場時間など観覧に条件のある場合がございます。詳細についてはウェブサイトをご覧ください。)

広島市中区吉島学区・吉島東学区各所

観覧無料/会期中無休(展示場所によっては制限あり)

企画担当：今井みはる(広島市立大学大学院 現代表現領域)、中村圭(広島市立大学芸術学部 非常勤助手)

企画サポート：岡本芳枝

### 企画概要

「わたしの庭とみんなの庭」展は、広島市中区の吉島・吉島東学区の多様な場所を展示会場とした、サイト・スペシフィック・アート・エキシビションです。地域コミュニティとの実験的共同作業により、地域の再発見を促し、創造的地域活性への可能性を図ります。

吉島・吉島東学区には、都市高速建設の為に東西に広がる空き地、20ヶ所もの公園、プランターによるガーデニングで玄関や軒先を彩る小さな庭、そして、かつては買い物客で賑わった吉島南商店街というように、さまざまな公私の場所が共存しています。

アーティストは、吉島公民館、福祉センター、ちびっこ広場などを展示空間として地域に参入し、住民とのコミュニケーションを図りながら作品を制作します。

展覧会の内容は、地域に点在するものを活用した作品展示や、アーティストらによる「旧中工場アートプロジェクト講座」(会期前にも開催)、参加型アートイベントなどを開催し、地域とアートが出会う実験的な場を作りたいと思います。

また、さまざまな人が集まる場所としてカフェもオープンします。

私たちは、そうして制作された作品や場所を通して、地域の「普段の日常」と「新しい日常」を、地域の方や来場者の方に、楽しんでいただければと考えています。

総合案内(旧中工場)・広島市吉島公民館等にて、展覧会情報・展示マップ等を配布いたします。

電話でのお問い合わせは、TEL：070-5520-4961(直通)まで。

「旧中工場アートプロジェクト講座」や、参加型アートイベント等の詳細は、随時吉島公民館やウェブサイトでお知らせいたします。

「わたしの庭とみんなの庭」ウェブサイト：<http://wiki.livedoor.jp/knap/>

### 交通案内：

○ 総合インフォメーション(旧中工場)(広島市中区南吉島1丁目4-2)

バス：JR広島駅(3番のりば)・八丁堀・本通りなどから広島バス(赤バス)24系統「吉島営業所」行きに乗り「南吉島」にて下車(約28分)、徒歩5分。※同じ24系統の「吉島病院」行きに乗らないよう注意して下さい。

車：吉島通りを南下した突き当たり。駐車場は周辺の駐車場をご利用下さい。

○ 吉島公民館(広島市中区吉島西3-2-10)

バス：JR広島駅(3番のりば)・八丁堀・本通りなどから広島バス(赤バス)24系統「吉島営業所」、「吉島病院」行きに乗り「ろう学校前」にて下車(約25分)、陸橋を渡り吉島交番手前を右折して徒歩2分。

停留所・時刻表・料金等の詳細については広島バスのホームページをご覧ください。<http://www.hirobus.co.jp/>

車：吉島通りを南下、吉島交番手前を右折してすぐ。公民館の駐車場をご利用下さい。(ただし、台数には限りがあります。)

主催：旧中工場アートプロジェクト実行委員会

共催：広島市立大学芸術学部 現代表現領域、広島市吉島公民館、(財)広島市ひと・まちネットワーク

協賛：株式会社きなり

助成：Asahiアサヒビール芸術文化財団、エネルギー文化・スポーツ財団助成事業

協力：アートサポーターズ@広島



# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

## 「わたしの庭とみんなの庭」展

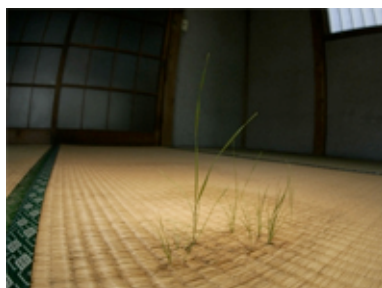
参加作家：23組



《神々と恋人たちのために-ガジュマル・エアフォース》2005 撮影:竹田直樹  
所蔵者:山城幸雄 協力:前島アートセンター



《フィクセーション トラック》2003



《発芽-雑草》(部分) 2004 撮影:斎藤剛  
取手アートプロジェクト2004での展示風景



《present》2004

### 竹田 直樹+上田 博文

1961年姫路市生まれの造園家・竹田直樹と1975年大阪府生まれの庭師・上田博文は、2004年から淡路島を中心に「空き屋リノベーションプロジェクト」開始。「wanakio2005」や、「向島・路地園芸プロジェクト」にて、発表。

「神々と恋人たちのために-ガジュマル・エアフォース」。

### 北川 貴好

1974年 大阪府生まれ。現在、東京を拠点に活動中。

1995年より野外や建築空間を利用したサイトスペシフィックな作品を制作する。主な展覧会では、「大地の芸術祭-越後妻有アートトリエンナーレ2003-」に出品。

### 狩野 哲郎

1980年 宮城県生まれ。現在、東京を拠点にさまざまな場所で展覧会中。

2004年より、さまざまな場所で植物の種子を集め、運び、まき、見守るという植物の生活環(発芽-生長-枯死)を構成要素とするインスタレーション作品シリーズ《発芽-雑草》に取り組む。

### 高橋 佳江

1977年 広島県生まれ。現在、広島を中心に「贈ること」をテーマとして作品づくりを行っている。最近では、不要になったものを預かり人形を制作—展示—持ち主にプレゼントをするという流れの作品を展開している。

ワークショップを中心にさまざまなプロジェクトに参加。

**PRESS RELEASE**  
2007年3月28日

**旧中工場アートプロジェクト**  
070-5520-4961 (広報担当:岩崎)

**広島市立大学芸術学部 現代表現研究室** 〒731-3149 広島市安佐南区大塚東3丁目4-1  
URL: www.cat-lab.jp E-mail: cat@art.hiroshima-cu.ac.jp TEL: 082-830-1501

# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

サテライト企画

## 「金庫室のゲルトシャイサー」展

2007年4月1日(日)～4月22日(日) 10:00～19:00 (最終入場は閉場の30分前まで)

旧日本銀行広島支店 (広島市中区袋町5丁目16)

観覧無料/会期中無休

企画: 柳幸典

### 企画概要

旧中工場アートプロジェクト総合ディレクターの柳幸典が作家として作品展示とキュレーションをする展覧会であると同時に、旧中工場アートプロジェクトのサテライト企画として同時開催します。広島市指定重要文化財である旧日本銀行広島支店の被爆の歴史的事実そして貨幣経済を担ってきた歴史を引用したメッセージ性のあるサイトスペシフィックな展示内容。「戦争」「貨幣システム」その独占機関としての「国家」について問題提起します。また旧中工場アートセンター構想と同じく、その本来の機能を終えた建造物の積極的な歴史の引用によるアートセンターとしての実験的提案ともいえるでしょう。

展示構成としては、柳幸典による「国家」及び「戦争」をテーマとした1階のメインホールのインスタレーションを導入とし、地下の金庫室に「貨幣システム」をテーマとしたゲスト作家の多様なインスタレーションが展開される計画です。

尻から金をひり出すヨーロッパ中世の空想上の怪物ゲルトシャイサーは金をひり出す代わりに何か大切なものを要求します。私たちは富の代わりに何をゲルトシャイサーと交換してきたのでしょうか。

爆心地からわずか380m、多くの人間は一瞬で消滅したにも関わらず金庫室の貨幣などは無傷であったという堅牢な地下の金庫室に、ゲルトシャイサーは永久に潜み続けるのでしょうか。

### -関連企画-

#### 「どうする？ 広島折鶴」展

旧日本銀行広島支店が広島に寄せられてくる大量の折り鶴の展示場所となっていることから広島折鶴の保存問題の打開案を提案します。

広島折鶴の保存問題の対策をアーティスティックな方法で解決するプランの公募展です。

日本中および世界各地から寄せられてくる平和への願いとしての折鶴は膨大な量に及びます。刻々と蓄積していく善意の量は同時に物質の量を意味し、その「保存」もしくは「有効活用」は広島の特異な地域的課題です。人々の平和への願いを大切に尊重し、同時に物量問題を解決するためにアートによる創造的解決策のプランを展示します。

### 交通案内: 旧日本銀行広島支店

路面電車: JR 広島駅より路面電車①番「広島港」行きに乗り、「袋町」にて下車(約18分)、電停前すぐ。

広島バスセンターから本通方面に徒歩10分。

主催: ゲルトシャイサー・イン・ヴァルト実行委員会

協賛: 株式会社大和ラヂエーター製作所、Yanagi Studio

助成: Asahiアサヒビール芸術文化財団、エネルギー文化・スポーツ財団助成事業、財団法人朝日新聞文化財団

協力: 旧中工場アートプロジェクト実行委員会

深瀬記念視覚芸術保存基金

アートサポーターズ@広島

# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

## 「金庫室のゲルトシャイサー」展

参加作家：23組



《アーティクル9》1994



《The 1,000 Yen Definitive Stamps》1998



《弾丸ステッカー》1995～ 撮影：山本 糾



《もし100万円を素材とした芸術作品があったら果たしてそれはどれだけの価値があるのだろうか?》(部分) 2000

### 柳 幸典

1959年福岡県生まれ。

作品解説：「国際紛争ヲ」「放棄スル」「解決スル」といった文章の断片をつなぎあわせると、日本国憲法9条の全文となる。平和主義をうたう条文を解体した文字がネオンサインで表され、赤い光と暗い闇の交互に入れかわる強烈な空間を作り出す。(インド国立美術館での展示風景)

### 太田 三郎

1950年山形県生まれ。

作品解説：切手をテーマとしていることで知られる作家による紙幣をモチーフとした作品。紙幣の図柄や額面の数字がそのまま切手のデザインとして取り入れられている。子ども用教育玩具の紙幣が素材として使用されているが、美術作品となったことで経済的価値を持つものへと転換されている。

### 豊嶋 康子

1967年埼玉生まれ。

作品解説：美術館のガラスなどに「弾丸痕」のステッカーを貼り付け、見る者に「安全で平和」とされている空間ひいては社会に揺さぶりをかける。今回、会場となる旧日本銀行広島支店(1936年竣工、被爆後も1992年まで、ほぼそのまま使用されていた)で展示されることで、さらにその意味性を増すことになる。

### あいだ だいや

1976年東京生まれ。

作品解説：作家自身がアルバイトで貯めた100万円を銀行で1万円札のピン札に交換し、それらを横5列、縦20段に配置して、縦2m、横1m、厚さ1cmのアクリル板で表裏両側から挟みこんでいる。この作品は、作家本人によってネットオークションに出品され、皮肉にも33万4千円で落札された。

# 旧中工場アートプロジェクト

HIROSHIMA ART PROJECT -turning waste incineration plant into art center

## 04. 各開催会場



旧中工場プラットフォーム（広島市中区南吉島1丁目4-2）  
「ゴミがアートになる！超高品質なホコリ」展 会場  
旧ゴミ処理場施設（現在スラグ置き場として使用）



総合インフォメーション



広島市中区吉島学区・吉島東学区各所  
「わたしの庭とみんなの庭」展 会場  
新旧の中工場と平和公園の間に位置する広島市中区吉島



旧日本銀行広島支店（広島市中区袋町5丁目16）  
サテライト企画「金庫室のゲルトシャイサー」展 会場  
被爆建造物  
長野宇平治設計（1936年竣工）  
広島市指定重要文化財



広島市環境局中工場（広島市中区南吉島1丁目5-1）  
シンポジウム（4/1）会場  
新ゴミ処理場施設  
谷口吉生設計（2004年竣工）  
2階エコリアム、屋外の自由見学可能（9:00-16:30）  
（その他、申し込みによる見学会がございます。詳細については広島市のホームページをご覧ください。）